

グラウンドワーク東海活動団体訪問 犬山里山学研究所

2015年1月18日(日)竹谷理事長と共に活動団体のNPO法人犬山里山学研究所(以下「犬山」と略)を訪問し、活動状況の取材と意見交換を行いました。

通常「犬山」は野外活動中心ということですが本日は屋内活動。スタッフを含め約50人が集まった。そのうち外国人と思えた人は子供を含め1/3くらい。

本日は「花嫁人形タペストリーつくりと箱寿司料理で国際交流」ということだがタペストリーって何だ?箱寿司って何だ?

日本人の私でも分からないモノで国際交流できるのか?



みなさんも私たちと一緒に、里山と人と生きものとの“つながり”について、考えてみませんか?

活動目的



犬山市周辺の里山に対する、調査研究を踏まえ、自然資料の収集および分析、生物・環境講座や観察会の主催、保全活動の実施等を行い、里山の大切さについて世代を超えて発信していきます。



里山がもっている「教育力」を掘り起こし、体験学習の場として活用、子供達が自然環境に理解のある豊かな人材として育っていくことを目指します。



市民、企業、行政と連携・協力し、里山都市の魅力づくりを行うとともに、地域連携のもと活力ある農村づくりを推進します。



活動や調査研究の成果を出版、公開講座の実施や研究発表、研究雑誌投稿等で幅広く発信し、人々に還元・普及していきます。



10時開始。まずは当然ながら花嫁人形や箱寿司の説明から。タペストリーは壁飾りらしい。箱寿司は文字通り箱に入れて作る押し寿司だった。作業開始。外人さんはペルーから来た人ということでスペイン語の通訳さんの説明付。



11時半頃作業完了。できたタペストリーを飾って、箱寿司試食。外人さんグループは花嫁のタペストリーを背景に記念写真を撮ったり、寿司を食べてご機嫌。私も「犬山」スタッフさんが作った箱寿司をゴチになった。寿司飯が旨かった。





12:30 から 1 時間ほどスタッフミーティングに混ぜてもらって意見交換。

15 名ほどのスタッフの多くが女性であり、このような企画ができる背景と思った。以下は主な意見。

- ・この企画は定例の野外企画のほかに行っているもので、外人さんに来てもらって夏・冬に着物を着る、餅つき、盆踊り、流しそうめんなどで交流をしてきた。しかし、同じことの繰り返しはしないのがポリシー。したがって公開募集は行っておらず通常活動の「自然学校」参加者や通訳さんの知人ルートで集まってもらっている。
- ・今回の花嫁人形の折り紙貼り付けタペストリーは「犬山」オリジナル。
- ・スタッフミーティングでは外人参加者からの差し入れというお菓子をいただいたが、このように感謝されるのがうれしい。
- ・今は国際協力協会（？）経由で外人さんを募集しているが、次はペルー以外の人にも対象を広げて影絵、竹筆で書初めをしたらなどのアイデアが出された。
- ・「犬山」の活動費は受託事業、助成、寄付、会費などで万遍なく調達している。今回は独自企画のためボランティア負担主体。
- ・将来は行政機能を一部受け持って多様な機能を持ったパブリックワークをになっていきたい。

当日はあえて質問しなかったことが一つ。女性（おばちゃん）がイニシアチブをとっている組織

は強い。地元の子供ネットワークなど濃密なネットワークを背景にしていることが多いからだ。対しておっさんネットワークは広域だが薄いのが多いと思う。えらそうな発言はできるが活動実務は女性という感じがする。

事務局:山本